



なかすじっ子

2019年
6月14日

No.11

文責：陸野

6月の生活目標：えい生に気をつけよう！

道徳の授業参観、救命救急法講習への参加ありがとうございました

6日（木）は、道徳授業の参観、救命救急法の講習、学級懇談とたくさんの保護者の皆さんにご参加いただきました。本当にありがとうございました。

道徳授業はいかがでしたか？ 学習指導要領改訂（小学校では2020年度に全面実施）に伴って、道徳は昨年度より「特別の教科 道徳」となりました。道徳科では、答えが一つではない道徳的な問題を、一人ひとりの子どもたちが自分自身の問題として考え、交流し合い、共感したり気づきあったりしてお互いに納得できる最善解を話し合い、それを通して、自己の生き方や人間としての生き方について考えを深める「考え、議論する道徳」をめざしています。評価については、数値による評価は行わず、子どもたちの学習状況や道徳性にかかわる成長の様子（一人の子どもの個人内での道徳的成長）を文章で評価することにしています。

今回の授業では、各学年で、次のこと（道徳的な問題）について考えました。

- 1年生は、遊びたいという気持ちを抑えて裏山に入らないことを決めた2人の決断を共感的に理解することを通して、よいことを進んで行うことの大切さについて考えました。
- 2・3年生は、友だちと仲直りできずにいるしょうたの心の動きを共感的に理解することを通して、友だちの大切さや仲よくしようとするものの大切さについて考えました。
- 4年生は、本の使い方を巡る3人の主張について考えることを通して、約束には責任が伴うことを理解し、約束やきまりを理解しようとするものの大切さを学びました。
- 5年生は、自分の勘違いに気づいたかすみの心の動きを共感的に理解することを通して、正直で明るい心を大切に、誠実に生きようとするものの大事さについて考えました。
- 6年生は、手品師の迷いと決断について考えることを通して、誠実に生きることのすがすがしさに気づき、誠実な生き方をしていくことの大切さを学びました。



子どもたちの意見や考えを聞いて、保護者の皆さんもいろいろな気づきや学びがあったのではないのでしょうか。このように、いろいろな出来事（問題）に関わる人物の言動や生

き方について、自分と重ね合わせながら考え、議論し、自分の生き方を見つめていくことを積み重ねることで、よりよい生き方（道徳的成長）につなげていきたいと考えています。

授業についてのご意見や感想もお願いしたところ、たくさんの保護者の皆さんから返信をいただきました。ちなみに、保護者の皆さんからいただいた授業の評価は次の通りです。

とてもよかった	よかった	あまりよくなかった
52%	48%	0%

ここで、いくつかの感想を紹介させていただきたいと思います。

- ★行ったり来たりで、1時間通して見れなかったですが、にぎやかに楽しそうな声が聞こえてましたね。まだまだむずかしい所もあると思うけど、お友達の気持ちや意見をたくさん聞いて、自分の良いと思う意見も伝えられる大切さに気付けるといいなと思います。文章にするのがむずかしそうだったけど、〇〇なりに自分の言葉で一生懸命書いていましたね。がんばりました。
- ★話だけでは難しいことも、自分の体をつかって、その話の人物になり切り何を思うのか、どんな子持ちになったのかを考えることで、相手への思いやる心の大切さがわかりやすい授業になったと思います。
- ★みんながきちんとした自分の考えを発表できていてすごいと思いました。
- ★算数や国語と違って、答えのない、自分の気持ちや相手の気持ち、他の友達の考えを聞いて考えることもできるので、道徳で学ぶことはたくさんあると思います。家でも、「友達ってどんな人が友達?」「されて嫌なことはしてはいけないこと」「伝える大切さ」について振り返りました。
- ★なぜこうしたのだろう?自分だったらどうする?を自分でしっかり考えて、皆の気持ちも聞いて、ができていたので良かったです。いつも、これはこうだからダメ!と言いがちですが、自分でしっかり考え、こうだからダメなんだとしっかり考えることができる言葉かけをしていきたいと、私も勉強させていただきました。
- ★子どもの考え方や感じ方がわかり、驚きや成長を感じました。また、学年を増すごとに、いろいろな言葉が増えてきて、こっちも勉強になりました。

救命救急法講習にもたくさんの保護者の方が残ってくださいました。消防署から宮本昌平さん、室津将之さん、地域から応急手当普及員の勝瀬泰彦さん、橋田まやさんに来ていただき、学校からは5・6年生と中学生が参加して講習を行いました。

説明の後、小学生・中学生・おとなグループに分かれて、人形を使って実際に胸骨圧迫と人工呼吸に挑戦しました。子どもグループでは、恥ずかしがってなかなかやろうとしないのではないかと心配していましたが、それは杞憂に終わりました。グループでの実習が始まると、どちらのグループも子どもたちは進んで手を挙げ、一人ひとりが恥ずかしがらず、しかもまじめに取り組んでいました。ここでも、「なかすじっ子」の良さを見せてもらいました。



終わりに、児童会長の穂乃花さんが代表でお礼の言葉を言いました。「胸骨圧迫や人工呼吸をしてみて、実際にやるとなると、長い時間やらなければならないので大変だと思いました。これからプールが始まるので、習ったことを覚えておきたいです。」

指導してくれた方から、次のような言葉をいただきました。「みんな熱心で積極的です。6年生の姿を見て、5年生も頑張っていましたね。」

子どもたちの頑張りが特に光った救命救急法講習となりました。